

## カテゴリー区分について（案）

区分および基本概念	具体的要件
<p><b>絶滅</b> Extinct(EX) 本県ではすでに絶滅したと考えられる種</p>	<p>環境省カテゴリーの「絶滅」に相当</p> <p>過去に本県に生息したことが確認されており、飼育下を含め、本県では既に絶滅したと考えられる種</p>
<p><b>野生絶滅</b> Extinct in the Wild(EW) 飼育下でのみ存続している種</p>	<p>環境省カテゴリーの「野生絶滅」に相当</p> <p>過去に高知県内に生息していたことが確認されており、飼育下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種</p>
<p><b>絶滅危惧Ⅰ類</b> Critically Endangered + Endangered (CR+EN) 本県において絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。</p>	<p>環境省カテゴリーの「絶滅危惧Ⅰ類」に相当</p> <p>次のいずれかに相当する種</p> <p>① 既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。</p> <p>② 既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している。</p> <p>③ 既知のすべての個体群が、その再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。</p> <p>④ ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。</p> <p>[絶滅危惧ⅠA類] Critically Endangered(CR) ごく近い将来における野生での絶滅の可能性が極めて高いもの。</p> <p>[絶滅危惧ⅠB類] Endangered(EN) ⅠAほどではないが、ごく近い将来における野生での絶滅の可能性が極めて高いもの。</p>
<p><b>絶滅危惧Ⅱ類</b> Vulnerable(VU) 本県において絶滅の危険が増大している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。</p>	<p>環境省カテゴリーの「絶滅危惧Ⅱ類」に相当</p> <p>次のいずれかに該当する種</p> <p>① 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。</p> <p>② 大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化している。</p> <p>③ 大部分の個体群でその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。</p> <p>④ 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。</p>

<p><b>準絶滅危惧</b></p> <p>Near Threatened(NT)</p> <p>存在基盤が脆弱な種</p> <p>本県において、現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては、「絶滅危惧」として上位に移行する要素を有するもの。</p>	<p>環境省カテゴリーの「準絶滅危惧」に相当</p> <hr/> <p>次に該当する種</p> <p>生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。</p> <p>具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれのあるもの。</p> <p>① 個体数が減少している。</p> <p>② 生息状況が悪化している。</p> <p>③ 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。</p> <p>④ 交雑可能な別種が侵入している。</p>
<p><b>情報不足</b></p> <p>Data Deficient(DD)</p> <p>評価するだけの情報が不足している種</p>	<p>環境省カテゴリーの「情報不足」に相当</p> <hr/> <p>環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には次のいずれかの要素）を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種。</p> <p>① どの生息地においても生息密度が低く希少である。</p> <p>② 生息地が局限されている。</p> <p>③ 生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。</p> <p>④ 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。</p>
<p><b>絶滅のおそれのある地域個体群</b></p> <p>Threatened Local Population(LP)</p> <p>地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。</p>	<p>環境省カテゴリーの「絶滅のおそれのある地域個体群」に相当</p> <hr/> <p>次のいずれかに該当する地域個体群</p> <p>① 生息状況、学術的価値等の観点から、レッドデータブック掲載種に準じて扱うべきと判断される種の地域個体群で、生息域が孤立しており、地域レベルで見た場合、絶滅に瀕しているかその危険が増大していると判断されるもの。</p> <p>② 地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、絶滅に瀕しているか、その危険が増大していると判断されるもの。</p>

[高知県独自の 카테고리]

区分及び基本概念	具体的要件
<p><b>要注目種</b> Noteworthy(NW) 本県では、現時点で普通に見られるものの、特徴ある生息・生育状況等により注目すべき種</p>	<p>本県独自の 카테고리</p> <p>高知県内では、現時点では普通に見られるため、上記の 카테고리 <del>(※1)</del> には含まれないが、下記に該当するため、その生息状況に注目すべき種</p> <p><del>※1「絶滅～絶滅のおそれのある地域個体群」 카테고리</del></p>
<p><b>隔離分布種</b></p>	<p>本県では、現時点では普通に見られるものの、日本における分布が稀である種又はその分布が分断されている種。</p>
<p><b>分布北限・南限種</b></p>	<p>本県では、現時点では普通に見られるものの、日本における分布の北限又は南限とされる種。</p>
<p><b>タイプ産地となっている種</b></p>	<p>本県内にタイプ産地がある種</p>
<p><b>その他</b></p>	<p>隔離分布種、分布北限・南限及び県内にタイプ産地がある種には当たらないが、各分科会において、注目に値すると考えられる種</p>